

東京有明医療大学附属鍼灸センター報告（第1報）

木村友昭 水出靖 菅原正秋
 古賀義久 高梨知揚 高山美歩
 東郷俊宏 藤本英樹 矢野裕義
 安野富美子 坂井友実

I. はじめに

東京有明医療大学附属鍼灸センター（以下、鍼灸センター）は、（1）東京有明医療大学鍼灸学科学生の臨床教育の実践、（2）地域住民の健康維持・増進への貢献、（3）鍼灸医療のエビデンス集積につながる臨床研究の実施を目的として、開学当初より開設に向けての準備を進め、2011年1月11日に業務を開始した。

本稿では、鍼灸センターの概要と開所から2012年3月までの来所患者状況について報告する。

II. 鍼灸センターの概要

1. 環境面

鍼灸センターは、東京有明医療大学校舎二階の一角に位置しており、附属接骨センターと学生サポートセンターに隣接している。通常、患者は階下の附属クリニック奥のエレベータを利用して鍼灸センターに来所出来るようになっている。治療スペースは、ハードパーティションとカーテンで区切られている通常区画（図1）15区画と個室（図1）2室を含む計17区画であり、このうち、



図1 東京有明医療大学附属鍼灸センター

廊下に面した通常区画（8区画）は廊下側にドアが設けられ、患者と施術スタッフの動線を分けることが可能となっており、現状最も使用頻度の高い区画となっている。

各区画内にはそれぞれ個別に電動施術ベッド、スタッフ用デスク等の一般的な備品を始めとして、鍼灸治療に必要な鍼（全て単回使用ディスプレイステンレス鍼）、灸セット、手指・施術野消毒用物品、鍼電極低周波治療器等も常設されているが、これら器具とその運用手順は原則として鍼灸学科学生教育カリキュラムにおいて指導している内容に準拠させ、4年次に実施される臨床実習（附属鍼灸センター実習ⅠおよびⅡ）の導入時に混乱が生じないように配慮している。

2. 運用面

鍼灸センターは、毎週月曜日～金曜日の午前10～12時と午後1～5時まで業務を行っており、大学休業日と入試等特定の大学行事日には休診としている。原則として予約による施術を実施しているが、新規の患者受け入れは可能な限り随時行っている。

施術は、はり師・きゅう師の資格を有する本学鍼灸学科専任教員11名で担当しており、常時2～3名ずつが施術対応出来るようにローテーションしている。

予約受付や会計等、施術以外の各種業務のため、接骨センターと共用の事務スペースには事務スタッフ（本学常勤あるいは非常勤スタッフ）1名が常駐している。

なお、現在江東区内において避難生活を送っている東日本大震災の被災者の方には、支援の一環として無料で施術を行っている。

3. 患者情報の集積について

鍼灸センターで取り扱う患者情報のうち、住所、氏名や来所状況に関する基本的な情報は、データベースソフトウェア(Filemaker Ver.12)を用いて構築した管理システム(図2)に記録することとしている。これに加え、本学情報センターの協力を受けて構築した会計システムに

より、領収書の発行や年月日ごとの集計等の各種会計処理については統合された環境下で管理することが出来る。

患者情報のうち、鍼灸臨床活動によって得た情報（主訴や現病歴、各種所見、推定病態、施術内容など）については、施術者がカルテに記載し、いわゆる紙ベースで管理しているが、初診時データのみは管理システムに入力して検索・集計が可能となっている。

次項では、これらシステムに入力されたデータから、鍼灸センター開所から2012年3月までの来所患者状況について報告する。

Ⅲ. 開所から2012年3月までの来所患者状況

1. 月間施術日数、初診患者数、患者数および累計患者数

集計対象期間における月間施術日数、初診患者数、患者数および累計患者数を図3に示す。施術日数は261日（月間平均18.7日）、初診患者数は計298名（月間平均19.9名）、累計患者数は2,291名（月間平均157.3名）であった。

2. 患者構成

(1) 性別

初診患者の性別内訳は男性99名、女性152名であり、女性の方が約1.5倍多かった。



図2 鍼灸センター情報管理システム操作画面

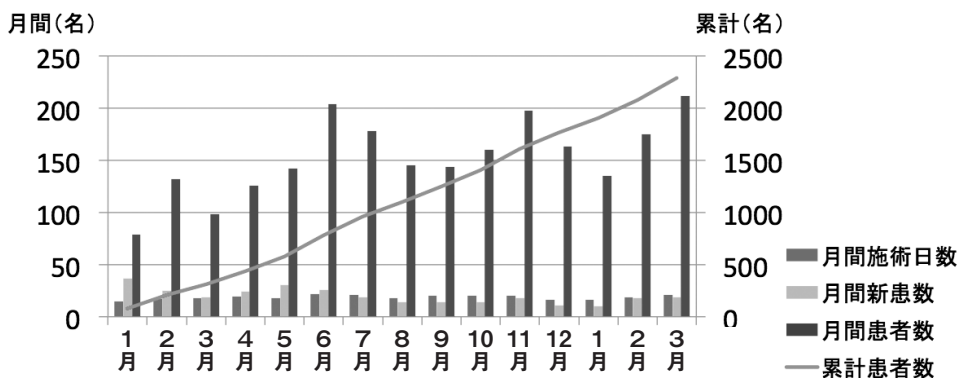


図3 月間施術日数、新患者数、患者数および累計患者数

(2) 居住地域別

来所患者を居住地域別にみると（図4）、江東区内が全来所患者の約68%と圧倒的に多く、江東区以外の東京都内（20%）、千葉県（5%）、埼玉県（3%）、茨城県（1%）、神奈川県（1%）がそれに続いていた。江東区内の居住地域をさらに詳細にみる

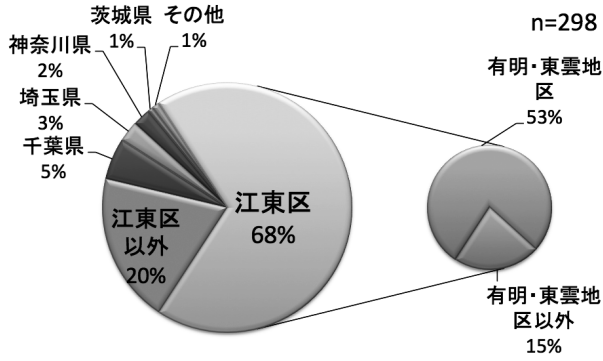


図4 来所患者の居住地域別内訳

と、その多くが有明地区、東雲地区といった徒歩で来所可能なエリアに居住していた。

(3) 年齢層別

来所患者の年齢層別分布状況についてみると、30歳台（25%）、40歳台（23%）が多く、この両者だけで全体のおよそ50%を占めていた（図5上段）。この分布傾向はセンター近隣地区の年齢層別人口分布状況（図5下段）と類似していた。

(4) 職業別

来所患者の職業別内訳は、会社等勤務が44%と最も多く、主婦（15%）、無職（11%）、学生（7%）、自営業（6%）がこれに続いていた。

(5) 情報源

来所のきっかけとなった情報源としては、鍼灸センター窓に設置した看板（22%）、本学関係者からの紹介（14%）、知人や家族からの紹介（それぞれ13%）、インターネット（11%）等が多かった。

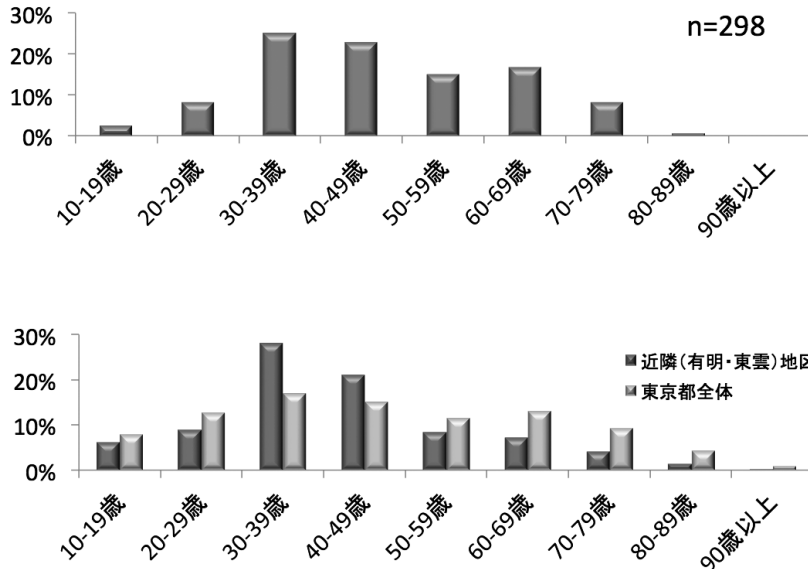


図5 来所患者の年齢層別分布状況(上段)と、東京都およびセンター近隣地区の年齢層別人口分布⁷⁾(下段)

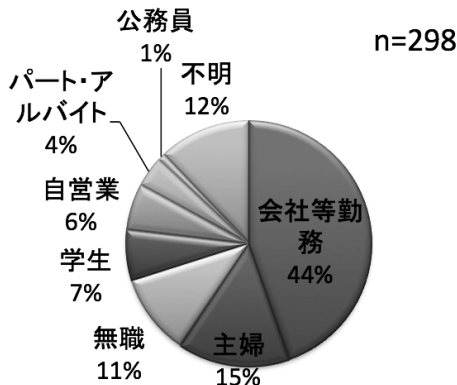


図6 来所患者の職業別内訳

表1 来診者情報源 (n=298)

情報ソース	人数	(%)
看板	65	22%
本学関係者	42	14%
知人	40	13%
家族	38	13%
インターネット	34	11%
他医療機関等	17	6%
新聞・雑誌等	2	1%
その他	31	10%
不明	29	10%

(6) 鍼灸経験の有無

鍼灸センター初診時点での、鍼灸治療経験の有無を表2に示す。半数以上(約55%)がこれまでに鍼灸、あるいは両方の治療を受けた経験があった(表2)。

表2 初診患者の鍼灸経験 (n=298)

鍼灸経験	灸経験	人数	(%)
あり	あり	88	30%
あり	なし	68	23%
なし	あり	6	2%
なし	なし	116	39%

3. 来所患者の主訴

図7は来所患者の初診時における主訴を部位別に集計した結果を多い順に示したものである。肩部(128件)、頸部(56件)、腰部(108件)、背部(40件)が目立って多く、それらのほとんどは痛み、こり等の運動器系症状であった。また、部位別の主訴に該当しないものとしては、骨盤位(14件)、不妊(5件)、出産促進(3件)、月経異常(3件)等の産婦人科系愁訴や、不眠(7件)、眼精疲労(7件)等も治療対象となっていた。

IV. 考 察

1. 鍼灸センターについて

概要の項で述べた通り、患者基本情報については、鍼灸センターにおける業務内容に特化して開発したシステムを用いて管理しているが、今日まで安定して稼働しており、検索や集計の作業効率向上に一定の成果を上げていると思われる。その一方で、日々の臨床で得られた情報を電子化することは現時点では実現出来ておらず、い

わゆる電子カルテの全面的導入が今後の検討課題と考えている。

2. 来所患者数について

開所から1年3ヶ月間で鍼灸センター来所患者数は増加し、初診患者数は298名、累計患者数は2,291名に達した。涌田ら¹⁾は、本学と同様の鍼灸系大学附属実習施設である森ノ宮医療大学附属施術所の開所後1年間の統計から、初診患者数199名、累計患者数1,210名であったことを報告している。当センターにおいても、大学附属の鍼灸施術期間としておおむね順調なスタートを切ることができたと考えているが、施設のキャパシティーには十分な余裕もあることから、今後さらに来所患者数増加を目指した取り組みを進めることにより、臨床教育環境、臨床研究体制の充実を図りたいと考えている。

3. 患者構成について

鍼灸センター受診患者において近隣(有明・東雲)地区から来所する患者の比率が高いことは、来所のきっかけとなった情報源として22%と最も多かった看板(表1)や地域掲示板へのポスター掲示依頼など、これらの比較的限定したエリアに向けた広報活動を中心に実施してきた結果を反映するものと考えられた。

鍼灸センター受診患者の年齢層別分布は、30~40歳代にピークを持つプロファイルとなっていた。これまでの鍼灸系大学附属施術施設における実態調査¹⁻⁶⁾では、すべて40歳代以降にピークを持つ分布が報告されており、当センター受診患者においてはこれら先行事例よりも若年型の年齢分布が大きな特徴であると思われる。この特徴が受診者数の多い近隣地区の年齢層別人口分布状況と関連している可能性を考え、江東区の平成24年人口

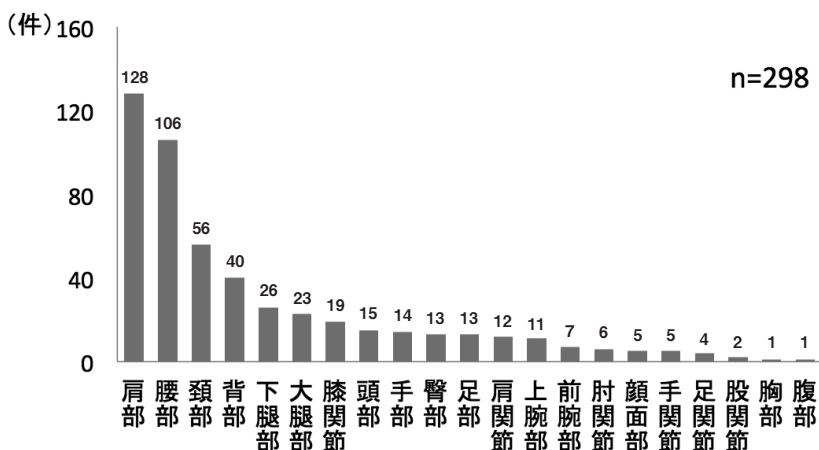


図7 部位別に見た初診時主訴内訳

統計から近隣地区の住民の年齢層別分布パターンを調べたところ（図5下段）、両者はよく類似していた。このことから、当センターにおける若年型の患者年齢分布は大規模なマンションが近年相次いで建築され、働き盛りの若い世帯が急速に増加している⁷⁾という近隣エリアの特性に依存しているものと考えられた。また、職業別内訳で社員の比率が44%と高く、逆に農林水産業従事者が0名であったことなども先行研究²⁻⁵⁾の結果と大きく異なっていたが、このことも都心の新興住宅エリアという立地条件による特徴と考えられた。

4. 来所患者の主訴について

来所患者の初診時における主訴部位は、いわゆる肩こりや腰痛など、頸肩部、腰背部の整形外科系愁訴が目立って多かった。この傾向は先行研究²⁻⁵⁾における報告内容と同様であり、鍼灸の適応症としての肩こり、腰痛というパブリックイメージが強く影響しているものと考えられた。厚生労働省実施の国民生活基礎調査⁸⁾によれば、肩こりと腰痛は長らく有訴者率の高い症状第1、2位を占めてきている。これら愁訴改善のために鍼灸に寄せられる期待に答えるために、今後も臨床活動を積極的に展開しつつ、鍼灸医療に関する情報の提供、啓発活動につとめていきたいと考えている。

他方、整形外科系愁訴以外では、骨盤位や不妊等産婦人科系疾患・愁訴が25件みられたが、これらの多くは産婦人科領域における鍼灸治療に関する症例集積、臨床的研究を推進中の鍼灸センター施術スタッフに向けての外部病院からの紹介状によるものであった。この例のように、施術スタッフの経験を生かした専門性の高い外来活動を展開することは、症例の集積効率を高め、当該領域における鍼灸の有効性・有用性に関するエビデンス構築のために重要であるだけでなく、各医療機関との連携など、地域医療システム全体における鍼灸医療のあり方を模索する上での貴重な情報をもたらすものと考えられ、今後積極的に取り組んでいきたい課題の一つである。

V. まとめ

1. 東京有明医療大学附属鍼灸センターの概要と、開所から2012年3月までの来診患者の実態について報告した。
2. 集計対象期間における鍼灸センター来所患者数は初診患者数は298名、累計患者数は2,291名であった。
3. 来所患者を居住地域別にみると、その多くが有明地区、東雲地区といった徒歩で来所可能なエリアに居住していた。
4. 来所患者の年齢層別分布状況についてみると、先行事例と比較して若年型の年齢分布となってお

り、都心の新興住宅エリアという鍼灸センターの立地条件による特徴と考えられた。

VI. おわりに

以上、東京有明医療大学附属鍼灸センターの概要と開所から2012年3月までの来所患者実態について報告した。今回報告対象とした期間の活動を経て、2012年4月からは鍼灸学科第1期生の臨床実習（附属鍼灸センター実習）を開始している。また、同月より、はり師・きゅう師の卒後研修の場を提供することを目的として、鍼灸センター臨床研修制度をスタートさせ、研修生の受け入れを開始している。これらの詳細については追って報告することとしたい。

謝 辞

鍼灸センター情報管理システム開発にご協力いただいた東京有明医療大学情報センターの山崎健氏、小林さとみ氏に感謝いたします。

文 献

- 1) 涌田裕美子, 辻丸泰永, 増山祥子 ほか. 森ノ宮医療大学附属鍼灸施術所開所後1年間の活動報告. 平成20年度全日本鍼灸学会第28回近畿支部学術集会講演要旨集 2007; 21
- 2) 田和宗徳, 矢野 忠, 佐々木和郎 ほか. 明治鍼灸大学附属鍼灸センターの実態報告（第1報）. 明治鍼灸医学 1990; 7: 107-117.
- 3) 田和宗徳, 矢野 忠, 佐々木和郎 ほか. 明治鍼灸大学附属鍼灸センターの実態報告（第2報）. 明治鍼灸医学 1991; 8: 85-95.
- 4) 津嘉山洋, 山下 仁, 堀 紀子 ほか. 筑波技術短期大学附属診療所における5年間の鍼灸外来活動報告. 筑波技術短期大学テクレポート 1998; 5: 217-222.
- 5) 和田清吉, 堀川隆志, 茨木千賀子 ほか. 本学附属鍼灸治療所の患者動向について－開設から3年を経過して－. 関西鍼灸短期大学年報 1998; 3: 14-19.
- 6) 廣 正基, 茅野 温, 江川雅人 ほか. 明治鍼灸大学附属京都駅前鍼灸センターにおける患者の実態報告. 明治鍼灸医学 2006; 38: 9-18.
- 7) 江東区 [internet]. 平成24年人口統計 <http://www.city.koto.lg.jp/kusei/tokei/862.html>. [accessed 2012-05-31]
- 8) 厚生労働省 [internet]. 平成22年度国民生活基礎調査 <http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/20-21.html>. [accessed 2012- 9-30]